

富士のさと わくわくキャンプ ～冬編～

令和2年1月12日(日)～1月13日(月) 1泊2日

○目的

「未知」・「挑戦」をテーマにした体験活動を通して、子供たちが自主性・協調性・基本的な生活習慣などを養い「生きる力」を身に付ける。

ボランティア養成研修の参加者等が身に付けた内容を子供対象のキャンプで実践しボランティアのスキルアップを図る。



【セクションごとの話し合い】

○本事業の仕組み

当所で養成したボランティアを中心に子供対象のプログラムを企画・立案し当日の運営を行う。



【ダッチオーブンの使用方法を共通理解】

○キャンプの企画立案

ボランティアを4つのセクションに分け、セクションごとにお互いにメール等で情報共有しながら、以下のことを行った。

- ・プログラムの選定、構成
- ・プログラムデザインシートの作成
- ※ねらいや手順、想定されるリスクと対応などを記載
- ・職員を交えてセクション別のミーティング
- ・全体進行表、セクション別日程表の作成
- ・実地踏査の実施 等



【プログラムデザインシート】

○キャンプ当日の運営

当日の運営は、ボランティアと社会教育実習生、合わせて18名が担った。スタッフは前日から宿泊し、各プログラムの準備や最終的な打ち合わせを行って参加者を出迎えた。今回の参加者は静岡県東部5市1町の4～6年生24名であった。

1日目【1月12日(日)】



《はじめの会》
新しい出会いにわくわく



《アイスブレイク》
グループごとに自己紹介



《プログラム①》
交流の家を探索したエッグハント



《夕食づくり》
未知のダッチオーブンに挑戦



《隠し味はみんなの協力》
頑張ってたった味は絶品！



《ナイトプログラム》
影絵・キャンドルで幻想的に

2日目(1月13日(月))



《プログラム②》
準備運動も“自分たちで”



《プログラム②》
アルティメット、スポーツ鬼ごっこ！



《おわりの会》
楽しかった！また会おうね。

《参加した子供の声》 ※一部抜粋

- ・どのプログラムも楽しくできた。できれば2泊3日にしたい。
- ・色々な体験ができた。他のことにも活かしたらいいなと思った。
- ・自然に友達と仲良くなれた。自立する気持ちを持つことができた。
- ・私は6年生だから、次はボランティアとして活動したいと思った。



○キャンプを終えて

《企画メンバーの感想》 ※一部抜粋

- ・緊張や不安も大きかったけど、ボランティア同士で教えあい、話し合い、チームとしてキャンプを企画運営することができた。
- ・あっという間の2日間だったが、子供達の笑顔が嬉しかった。「次も来たい、また会おうね」という言葉が、次も頑張ろうと思える原動力だと実感した。
- ・天候などによって様々なパターンを準備することは大変だけど、こういう準備、安全管理がキャンプを行うにあたっての根底にあることを学んだ。

《成果と課題》

開催時期を考え、事前研修をキャンプ3週間前に行えたので課題が共有でき、余裕を持って参加者の笑顔に繋がる活動の準備ができた。また、ボランティアとして初めて参加したメンバーにとって、企画や参加者との関わりなど、多くを学ぶ好機となった。

立場の異なるボランティア間で、十分な打ち合わせ、情報共有の不備があった。また、プログラムの間の「繋ぎ」を考えるなど、日程全体を見て、考えて行動できるようになると更に良い。今後もボランティアの活躍の場を提供し、成長に繋がる環境をつくっていきたい。